



開校記念日によせて

未来に繋がる自分へ繋げる

主な内容

| | |
|--------------------------|-----|
| 開校記念日特集 繋がっていく「駒澤人」魂 | 4・5 |
| ボランティア体験記／地域との繋がりを大切に | 9 |
| 留学体験レポート／語学セミナー体験記 | 10 |
| 世界の文化を探る ―ブータンの自然と生活― | 11 |
| サークルの活動報告 | 14 |
| 活躍する卒業生 ミュージシャン 久保田 利伸さん | 16 |



歴史と伝統の重み
総長 田中 良昭



震災からの復興と大学の役割
学長 石井 清純

今年の10月15日は本学の129回目の開校記念日に当たります。

そもそも本学は、戦国時代末期の文禄元（1592）年以前に、江戸駿河台にあった曹洞宗の吉祥寺に設けられた「学林」（正式には「吉祥寺会下学寮」）に源を発します。その後吉祥寺の移転で駒込に移り、たまたま訪れた中国の学僧陳道栄が、威儀整然とした学風を讃え、唐代の禅僧永嘉玄覺の『証道歌』（悟りのうた）にある「旃檀林に雑樹なし。鬱密深沈として獅子のみ住す」（旃檀の香木の林に雑木は生じない。うっそうとして静まりかえった林中に住めるのは、百獣の王たる獅子だけだ）の句から、「旃檀林」と命名して大書したことからこれが校名となり、昭和5（1930）年に制定された北原白秋作詩、山田耕筰作曲の「校歌」にも歌われているのです。

その後明治8（1875）年に、本学の設立母体である曹洞宗が、芝の青松寺にあった獅子窟学寮に開設した「曹洞宗専門学本校」を、翌明治9（1876）年に吉祥寺の旃檀林に併合し、さらに明治15（1882）年に麻布日ヶ窪（現在の六本木附近）に校舎を新築し、その名も「曹洞宗大学林専門学本校」と改めて10月15日に開校式を行ったことから、この日を本学の開校記念日としているのです。

その後もわが国の学制改革に伴って、明治23（1890）年に「曹洞宗大学林」、明治38（1905）年に「曹洞宗大学」と改称し、大正2（1913）年に現在の駒沢の地に移転し、大正14（1925）年に「駒澤大学」と名称を改め、戦後の昭和24（1949）年に新制大学として新たなスタートを切り、今日の発展をみるに到っているのです。長い歴史と輝かしい伝統こそ本学の誇りなのです。

平成23年3月11日に発生した東日本大地震は、東日本全域に大きな爪痕を残しました。その後、すべての人々が、この大震災からの復興にいかに関与できるかを、それぞれに模索し、実践しています。

本学も、震災発生以来、被災地の方々への支援と、本学の被災学生の学業継続のため、精一杯の努力をしましました。

復興への道のりは遠く、さらに息の長い対策が必要です。では、大学としていったいどう対応すべきか、この問題については、本学のみならず、大学全体の課せられた課題として、私立大学全体で真摯な議論が繰り返されています。

その動きのひとつとして、平成23年8月2日、私立大学団体連合会および私立短期大学協会の共催で開かれた「東日本大震災を超えて：大学のなすべきこと、できること」というシンポジウムがあげられます。

そのシンポジウムでは、「教育の復興なくして地域の復興と国の再生なし」という決意が表明されました。震災からの復興にあたり、高度な研究開発による復興支援とともに、有為な人材を育成し社会に送り出すことが、大学の役割としてより大切になっていることが改めて確認されたのです。

本学は、来年に開校130周年、そしてさらに再来年には駒沢の地へ移転して100年という節目を迎えます。これからは、その伝統を活かしつつ、研究および教育体制を充実させ、継続的に社会へ働きかけるための体制造りがさらに重要となっています。

東日本大震災復興構想会議の提言は、「復興への提言～悲惨のなかの希望～」というものでした。本学も、混乱する社会の中のひとつの希望となるべく、社会を見据えた歩みを持続してまいります。

一松語

研究棟から東京タワーと東京スカイツリーを一緒に見ることができる。来春開業予定の東京スカイツリーは高さ634メートル、333メートルの東京タワーを越えて日本一高い塔となった。当初の計画では610メートルであったが、覚えやすいように「武蔵（むさし）」にしたという。なるほどそれだけの高さがあれば、武蔵の国（東京・埼玉・神奈川）全域から望むことができよう◆感心したのは、巨大な塔を支える構造は、実は五重塔の技術から習ったということ

ある。法隆寺などにある五重塔は心柱制振といって柱を吊り下げのような構造になっており、巨大な揺れに耐えられるように工夫されている。コンピューター全盛の社会でも、一千年以上前の知恵と技術が役に立っているのだ◆そもそも五重塔は釈尊の舍利を納めた建物である。本家本元のインドでは半球状の土饅頭を造り、その上に高貴な者にかざす傘を立てた。これがstūpa(ストゥパー)と称され、本来の仏塔の姿だった。それがシルクロードを通り中国から朝鮮半島に伝わり、6世紀になって日本に伝来する。日本で

は三ないし五つの屋根を表現して、現在見られる三重塔や五重塔の形になった。インドの本来の仏塔の外観はすでに失われているが、釈尊の舍利を納めるという役割は現在も変わっていない◆本来は仏塔を起源に持つ五重塔の建築技術を駆使して建立されるスカイツリーの雄姿を眺めるにつけ、あたかも鳴動する昨今の日本に仏光が射し込む受信塔であるかのようと思われる。開業予定の来年5月には、仏の慈悲が復興事業の隅々にまで実現している平安の世を迎えることを祈ってやまない。

名誉教授のプロフィール



文学部
長沼 信夫先生

先生は、1964年に文学部副手として就任されて以来、最長不倒とも言える47年間奉職された。専門は水文学で、川崎市を中心に関東南部地域の地下水研究をされた。また、神奈川県自然環境保全審議会では温泉行政にも貢献され、本年7月には、神奈川県の温泉の保護と適正な利用に尽力されたことが認められ、環境大臣より温泉関係功労者として表彰を受けられた。温泉嫌いの先生だが、これを機に名湯に浸って体調管理をなさってください。
(文学部教授 高木 正博)



経済学部
福原 好喜先生

福原先生は、授業中の騒がしい学生に容赦ない「愛」の鉄拳を見舞う熱血教師である反面、社会的弱者には温かい救いの手を差し伸べる慈善家でもあった。世田谷区の子どもの善行を讀んで「良い子ら賞」を設けて表彰したり、銀八先生のペンネームによる本の出版、得意のドイツ語を駆使した作詞・作曲、さらには歴代首相の経済運営の間違いを批判して直訴するなど、先生の多岐にわたる精力的な活動がこれからも益々盛んであることを願っている。
(経済学部教授 森岡 仁)



経済学部
安元 稔先生

安元稔先生は昭和62年に就任され、24年間にわたり研究と教育に尽力されました。先生は文字どおり「研究のムシ」であり、研究室滞在時間のレコードホルダーでした。その不断努力で、イギリス経済史、歴史人口学に関する多数の業績を残されました。体力や気力の衰えは微塵もなく、本年3月には近年の研究成果を英国の出版社から上梓されました。今後も研究者としてのライフスタイルは変わることはないと思います。今後ますますのご活躍を期待しております。
(経済学部教授 友松 憲彦)



法学部
西 修先生

西先生は、早稲田大学大学院政治学研究所博士課程を満期退学後、防衛大学校勤務を経て昭和49年に本学法学部に奉職された。以来、37年の長きにわたり本学の発展に尽力された。先生は、ご専門の憲法史と比較憲法の研究・教育に多大の貢献をされるとともに、学生部長、法学部長および法学研究所所長などを歴任された。また、毎年、「ふれあい寄席・駒沢落語会」を開催され、地域の人々と本学との橋渡し役を務められた。
(法学部教授 荒木 正孝)



経営学部
永田 智則先生

先生は、中央大学大学院のご出身で、1969年の経営学部創立とともに本学部に就任されました。ご専門は国際経済学で、経済成長と貿易に関する論文などを書かれておられます。また、学部行政にもご尽力戴き、1995年からは経営学部長を、2005年からは大学院研究科委員長を務められました。特に、学部長時代には、学部カリキュラムの改正問題に辣腕をふるわれました。先生の世代は、いわゆる60年安保の世代であり、「昭和」も遠くなったものです。
(経営学部教授 滝田 公一)



総合教育研究部
石割 透先生

先生は、早稲田大学大学院のご出身で、1976年に駒澤短期大学国文科に着任。その後、駒澤大学総合教育研究部日本文化部門に移籍され、35年に渡り本学の発展に尽力されました。芥川龍之介研究の第一人者として知られ、新版の『芥川龍之介全集』では編者としてご活躍。文学だけでなく、美術、音楽、映画などの芸術も愛され、それらへの先生の熱い思いは忘れられません。その思いの結実としてご著作が今後も発表されることを願っております。
(総合教育研究部教授 小林 治)



総合教育研究部
岡本 誠先生

短大部長、国際センター所長として駒澤大学に多大な貢献をされた岡本先生は「英語の達人」である。日本にいながらにして身につけた正確無比な英会話力や日本人離れした達意の英文は、英米人も称賛してやまない。岡本先生は多才である。新聞で書評されるほどの秀逸な英国滞在記の作者として、また銀座で個展を開くほどのスケッチ画の名手として文才、画才もあわせ持つ。余技としてプレスリー等の英語の歌を歌わせれば天下一品。見事な英語の源はプレスリーでした。
(総合教育研究部教授 梅原 敏弘)



総合教育研究部
田中 保先生

田中先生は、昭和48年に駒澤大学に奉職された後、学内では国際センター所長などを歴任され、学外では現在も日本英語文化学会の会長を務められている。一言で先生を表現すれば、責任感という一語に尽きる。定年間近の数年間、外国語第1部門の将来を案じて部門のカリキュラム委員会の委員長を自ら引き受けられ、改革に尽力された。そこに先生の責任感の強さの一端がある。蛇足ではあるが、歌はプロ並みの声をお持ちである。
(総合教育研究部教授 林 明人)



総合教育研究部
大石 武士先生

大石先生は、昭和46年に駒澤大学に就任され、「生涯における健康とスポーツ」について、熱心に学生のご指導に当たられた。保健体育部時代には、部長も務められている。ご専門の空手道では、現役時代に全国大会三連覇という偉業を成し遂げられ、この記録はギネスブックにも認定されている。また、本学空手道部の師範として、数々の大会で成績を残してこられた。退官後も、国内外から空手道指導の依頼があり、多忙な日々を送られている。
(総合教育研究部講師 末次 美樹)



総合教育研究部
坂本 信昭先生

坂本先生は、本学の社会学科を卒業後、高校教員を経て1967年に文学部の副手となられ、その後44年間教職課程の教員として過ごされました。岡山の由緒あるお寺のお生まれで、大学入学前に曹洞宗の専門僧堂で修行も積まれています。そうしたご経験は、学生指導、ことに教育実習生の指導に活かされました。また関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会などの活動を通して、私立大学全体の教員養成の向上にも献身されました。
(総合教育研究部教授 北村 三子)

開校記念日特集

開校から129年の歴史を誇る本学は、21万人の同窓生を持ち、今では毎年約4000人の新入生を迎えています。そして本学には、長く受け継がれてきた「駒澤人」としての気質、また、時代の流れとともに変化してきたキャンパスライフがあります。「どのような人材を育てているか」という点でも内外からの注目度が高い駒澤大学。今回の座談会では、田中良昭総長を囲み、「駒澤人」としての気質に焦点をあて、3世代それぞれの視点から語っていただきました。当日は予定していた1時間を大幅に過ぎても話は尽きることなく、まさに時代を超えて、世代を超えて、「駒澤人」としての気質が融合したと言える座談会でした。



「本質を見極める力」が身につく出会いがある

浜門——学生時代に学んだことや当時の本学の印象を教えてください。

田中総長：私は昭和28年4月に仏教学部仏教学科に入学しました。昭和20年8月が終戦で、戦後の混乱もありましたが、私が入学した頃にはかなり落ち着いた環境でした。学生数は一学年で500人。全体で2000人ぐらい。ですから現在の一学年4000人、全体で1万6000人という規模からすると、小規模なカレッジというような雰囲気な大学でした。私自身が寺育ちでしたので、仏教系の学校は地味な印象を持っていましたが、予想通りでしたね。みなさんは、どんな印象を持っていますか？



小倉：現役生の目から見ると、大学内部だけではなく、外で学ぶ機会を多く認めてくれる大学だと思います。だからこそ、1年間休学して海外放浪の旅にも出られたと思います。何も知らない土地で生活することで、世界中に友達ができ自信ができました。

中田：ゼミやゼミの繋がりや、学ぶことがとても多くあります。また大学の友達と語り合えるのがとても面白いです。それによって自分の視野が広がったり、考え方が変わったりします。今、就活中ですけれど、「働くってどういうことだろう」と、ゼミの友達と働く理由について熱く議論したりしています。こうしたことが、物事の本質を見極めることに繋がっていくのではないかと思います。

篠崎：私は地味な大学かなと思ったら、渋谷に近いこともあり、おしゃれな学生も多くて、逆にギャップを感じてしまいました(笑)。大学の友人関係や人間関係

が高校時代と違うのは、いい意味で気を遣う関係が出てきたことです。また出身もいろいろな学生が多く、その人たちと話すことで視野が広がります。

浜門：私の入学は昭和52年です。今にして思うのは、サークル活動を通して様々な経験をさせてもらい、人間的に成長したということです。入学当時、大学生は随分大人だなあと感じたものです。いきなり文部省(当時)との渉外役を任されたりする。それらを無事に果たすことで、自信を持って行動できる自分が出来上がっていったと実感しています。



田中総長：教室では皆ほぼ同じ年齢ですが、サークルは上と下という関係があります。やはりそういうつきあいが大切です。先輩に対する心遣いも覚えるし、後輩にどう対応すればいいかも学ぶ。それが社会に出た時に役立ちます。ですから私は、サークルで4年間がんばって学んだことが、大学生活で一番大きなものだと思います。礼儀などは先輩に教えてもらうのが一番いいでしょう。親が教えるだけではなくてね。

形は変わってもアットホーム、一体感の強い駒澤

浜門——どんな学生生活を送ったか教えてください。

田中総長：学生の多くは、県人会とサークルの両方に所属していました。サークルは、体育会と文連(文化部連合)の2つの組織があり、私は文連の一番大きなサークルである「児童教育部」に所属しました。活動内容は、日曜学校や夏休みにお寺に宿泊する巡回等を通して、子ども達と触れ合うというものです。県人会

<座談会参加者>

田中良昭総長

昭和32年3月 仏教学部 仏教学科卒業

浜門真吾課長

学生部学生課

昭和56年3月 経済学部 商学科卒業

小倉健太郎さん(島根県出身)

文学部 地理学科 地域文化研究専攻 4年

昨年1年間休学し、ワーキングホリデーなどで、世界各国を渡り歩く。東日本大震災後には、気仙沼、石巻でボランティア活動を行う。

中田樹里さん(神奈川県出身)

グローバル・メディア・スタディーズ学部
グローバル・メディア学科4年

金山智子先生のゼミに所属し、駒大生の通行マナーなどについて問題点や大学の取り組み、通学路を限定されている経緯なども調査・研究している。駒伝の作成にも携わる。

篠崎彩佳さん(千葉県出身)

経営学部 市場戦略学科3年

洋弓部に所属するかたわら、現在、体育会本部の役員に就任し、体育会全体を盛り上げるべく活動している。

の活動は親睦会が主でした。新入生が入ってきたら歓迎会、卒業する時は送別会、コンパも県人会が主催しました。学生部などは、「野球部の〇〇君」、「児童教育部の〇〇君」というように、サークル名や県人会名を名前の前につけて呼んだりして、職員と学生も家庭的な感じで、「駒澤一家」というアットホームな雰囲気がありました。

中田：今は人数も増えて、家庭的な感じというのは昔とは少し変わっているかもしれませんが、やっぱり駒澤の一体感というのは強いのではないかと思います。GMS学部では、2年生からゼミを履修することができます。私が所属するゼミは2年生から4年生までで60人ぐらいいますが、家族のようでアットホーム

～繋がっていく「駒澤人」魂～

な雰囲気です。

浜門——総長先生の時代は少人数でアットホーム。今はゼミ単位でアットホーム。アットホームで一体感があるというのが駒澤の特徴のように感じます。一体感を生み出すために体育会の本部の活動が活発と聞きました。どのような内容ですか。



篠崎：いくつかあります。地域との一体感を醸成する目的で、体育会の部員たちで玉川キャンパス周辺の清掃活動を始め

ました。また、学生同士の交流の場も増やそうとしています。例えば、陸上競技部が出場している駅伝は、お正月にテレビの前で応援している人が多いと思います。でも、陸上競技部の方々はどのような人がいるのか、キャンパス内でなかなか接触する機会がないと思います。そこで私たちは実際に陸上競技部の選手と会って、多くの学生が駅伝のレースを盛り上げるような壮行会*を、今年の秋、駅伝シーズンに向けて実施しようと計画しています。（※11月29日開催予定）

浜門——このような催しがあれば参加してみたいと思いますか？

小倉：はい、ぜひ！ 体育会系の学生と普段接触する機会がないため、そういう機会があれば出てみたいと思います。

田中総長：私の時代は今体育館がある場所が運動場で、野球部が主に練習をしていましたから、よく練習風景を見ていました。でも今は、野球部は世田谷区上祖師谷の「駒澤大学野球部グラウンド」で、他の体育会系は、玉川キャンパスにある立派な施設で練習しているため、なかなか駒沢キャンパスで会うことはないでしょう。体育会の本部が行う壮行会は楽しみですね。

全員：はい。

田中総長：応援というと、私の頃で思い出すのは、応援団が怖い存在でしたね。普段から、太鼓を叩いての練習が目立っていましたし、新入生は昼休みになると今の禅文化歴史博物館の前に集められて、校歌と応援歌を練習させられました。寮生は早朝、寮の中で応援歌を覚えさせられていました。

小倉：ところで今、総長先生のお話にありました校歌について、歌詞の中に「旃檀林」という言葉が繰り返して出てきますが、その意味を教えてくださいませんか。

田中総長：「旃檀林」とは、中国唐代の禅僧永嘉玄覺の著作「証道歌」にある「旃檀林無雜樹 鬱密深沈獅子住」という一節に由来しています。この意味は、「かぐわしい旃檀の林には、雑多な木は生えない。うっそうと生い茂ったその林には、

百獣の王である獅子のみが住む」というのです。駒澤大学の歴史は、戦国時代末期の文禄元（1592）年以前に、今のJR水道橋駅の近く、江戸駿河台にあった吉祥寺に創設された「学林」に遡ります。この「学林」が、江戸時代に来日した中国の名僧陳道榮によって「旃檀林」と命名され、「学林」を薫り高き旃檀の林にたとえ、そこで学ぶ学生たちを、唯一そこに住むことのできる獅子になぞらえたものなのです。

小倉：深い意味があるんですね。

地域社会との「共生」にも力を入れていく

浜門——江戸時代の皆さんの先輩がそういう評価を受けたのですから、それを私たちも受け継ぎ、未来に繋げていきたいと願います。ただ、時代とともにかなり学生の雰囲気は変わっています。残念なことに最近、近隣の方から通行マナーについての指摘が多いのですが、みなさんは、どのように感じていますか？



中田：私は、ゼミで「駒澤通行マナー」をテーマに議論しています。昔の学生はどうだったのですか？

田中総長：昔は渋谷と二子玉川を結ぶ玉電という路面電車が走っていて、駒澤の学生は今の「駒沢交差点」で降り、そこから学校の正門まで大通りを歩くだけでした。このため歩きながら近隣にご迷惑をかけるということはありませんでした。

浜門：私は自分の入学式の日地下鉄新玉川線（当時）が開通して、駅から今のように歩いていました。その頃から通行マナーの問題はありました。でも一方で怒られたら素直に謝るといった気質もありましたし、街の一員であるといった自覚も今より強かったと思います。最近ではそのあたりの問題も学生部として考えなければならぬことです。

中田：ゼミでの報告の中に、ぶつかっても謝らずに無視をして逃げてしまうという学生が多いというものもありました。そう言われて見てみると、すれちがった時に、もちろん挨拶もしないし、接触しても何も言わないし、コミュニケーションが少ないと思いました。そうしたこともあって、近隣住民の方とも仲が悪くなっているのではと感じました。

田中総長：確かに私の学生の頃とは変わりましたね。昔は、学生はある意味では大人だった。とはいえ、逆にあまり活発

ではなかった。基本的には静かだったように思います。



浜門——近隣にお住まいの方から、学生たちに狭い場所で周囲の人に気を遣うマナーである「江戸しぐさ」を学ばせたらどうか、という意見をいただきました。そこで学生の一体感の良さを生かして、「駒澤しぐさ」を作れないかなと考えています。それを世田谷区内の大学、東京都内の大学と順に広げていき、大学発信で地域社会との共生がうまく図れるようにできるといいのではないかと考えていますが、どう思いますか？

中田：江戸しぐさを駒澤で取り入れると、大学全体に一体感がより強まると思います。

小倉：大学発というのは面白いですね。

浜門：仏教でも「共生」という言葉が使われるようですね。

田中総長：そうです。日本の仏教の教えは、自分自身が「行」を実践して、自分の願いを生かしていくということです。理論、理屈よりも、実践であると。これは、何も難しいことではありません。ルールやマナーなどを大切にす精神を持ち、それを実行するのもその基本の一つで非常に大事なことです。駒澤大学は率先して大いにやっていくべきでしょう。それは建学の理念にもかなうことだと思います。

浜門：行動に移せるといいですね。

小倉・中田・篠崎 はい。

浜門——最後に、総長先生にこれだけはお聞きしたいということはありませんか。

小倉：駒澤大学が今後発展を続けていくためには、何が必要か教えてください。

田中総長：教職員、学生、同窓会、教育後援会など、いろいろ組織がありますので、それぞれが連携して大学を発展させていけるよう皆で考え、その智慧を共有し実現することが大事だと思っています。ワンマンで組織を動かす時代ではありません。今は一人ひとりの構成員が、大学をどうするか、何ができるか、それをしっかり考えて大学を作りあげていかなければなりません。もっとも、現在すでにそれがいい方向に動き出しています。駒澤大学は確実にレベルアップしていると思います。

浜門：今日はどうもありがとうございました。

田中総長：いやあ楽しかった。ありがとう！

小倉・中田・篠崎 ありがとうございます。

太祖降誕会・成道会

仏教学部教授 池田 魯参

太祖降誕会

11月21日

悲母観音の祈り



大本山総持寺を開創された瑩山紹瑾禅師（1264～1325）は62歳の御生涯でした。高祖道元禅師の優れた仏法を全国規模の大教団に発展させた宗祖です。道元禅師から4代目に当ります。母上の懐観さまは18歳のときから87歳で亡くなるまで、肌身離さず十一面観音を念持されました。この観音さまに祈願し、37歳で瑩山禅師を身ごもり、産所に行く途次、（越前国）多禰の観音堂の敷地内で出産します。実に禅師は観世音菩薩の申し子でした。

瑩山禅師は59歳のときに、祖母の明智さまの菩提を弔うため、母上形見の観音さまを本尊として、永光寺山内に円通院を創建し、「悲母弘誓度女（女人救済）」の祈祷所とされます。禅師を養育した温かな家庭、そのことを終生忘れず感謝された禅師のお心が、尊くも慕わしく頂けます。

成道会

12月8日

久遠の光芒

12月8日、明けの明星が瞬く暁天に、釈尊はお悟りを開かれました。そのときの第一声が「我と大地・有情と同時に成道す」という教えです。釈尊のお悟りは釈尊お一人に限る出来事ではありませんでした。草木国土やこの世に生きとし生けるすべてのものが、しかるべき因縁によってあるという事実の発見です。いのちの真実相が釈尊の全身心に現成したわけです。

私たちもその気になれば、坐禅の時間の中で本来のいのちの消息に出会うことが出来ます。「花はただ咲くただひたすらに、ただになれない人間のわたし」（相田みつを作）。ただになれたら仏さま、ただになってる（只管打坐）仏さま、と思わず口ずさんでいました。心優しい人人、豊饒な山河に生かされている己のいのちの有り難さに想いをいたしましょう。



「駒澤会について」

駒澤大学駒澤会は創立40周年を迎えました。「四十歳而不惑」と論語にもあるように、まどわらない安定感を思わせる長い年数になります。発足当時の父兄会（現在の教育後援会）OBの有志の方々が、子弟卒業後も相互の親睦を図りつつ、大学の発展のため奨学制度を通じ、寄与していききたいとの念願から発足しました。以来、多くの会員・

大学の教職員の皆様からのご支援・ご協力を頂き、今日を迎える事が出来ました。

本年も7月に、20万円の奨学金を25人（延べ約1000人）に支給致しました。このような活動が、学生の皆様の『夢の実現』の一助になればと考えています。

尚、本年11月には創立40周年を記念した催しを計画しています。この機会

に是非、駒澤会の趣旨をご理解頂き、多くのご父母の皆さまにご入会頂けますようお願い申し上げます。



就職

4年生対象求人受付継続中、3年生・エンジン始動!

キャリアセンター

10月現在、4年生へ週平均200社以上から求人がある。新規よりも再募集、大手よりも中小企業、応募締め切りは「随時」、1社あたりの募集人員は10人内外が多い。会社説明（会）、即日に筆記試験、面接のこともあるから、予め当該企業のHPなどで前向きな話題を用意し、応募書類一式持参で説明（会）へ臨みたい。応募者少数でも激戦は必至。

採用側が学生に求めるのは、大手企業以上に「やる気」「元気」が基本。やる気は企業研究時間数に比例し、元気は声の明瞭さや視線の強さで決まる。

また、求人企業を招いての「学内合同企業説明会」を10月24、

31日、11月1日開催。

3年生向け「就職活動、実践に向けての総纏め」の第4回就職ガイダンスは、年度当初より1カ月繰り上げて11月に開催予定。

それは、これまでリクルートやマイナビ、日経就職ナビなどの求人サイトの10月1日公開をうけて企業研究をし、12月にエントリー開始だったところ、今年から12月1日に公開と同時にエントリー開始に変わったことに関連する。公開を待って企業研究をするのでは、エントリーに間に合わないからだ。人気企業では公開即時受付終了も。

応募企業リストアップ、そして、エントリーには、事前の自己研究・企業研究にもとづいた文章表現の優劣で次のステップへ繋がる。

求人検索・催し物照会はキャリアセンター HPで

11/5(土) 開催 ホームカミングデー

ホームカミングデー開催のご案内に先立ちまして、先の東日本大震災で犠牲になられました多くの方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。加えて被災地の一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

来る11月5日(土)駒沢キャンパスにおいて第8回ホームカミングデーを開催いたします。この催しは、駒澤大学・駒澤短期大学で学ばれた同窓生を母校にお迎えし、現在の大学の姿を見ていただき、さまざまなイベントを通して母校との絆を一層深め、同窓生・教職員・在校生相互の親睦、交流を図ることを目的とした企画です。本学の卒業生は21万人以上になり、毎年全員の方をご招待することは困難ですので、卒業年度の節目ごとに招待することにしております。また、今年度から卒業間もない方々もお呼びしたいとのことで卒業後5年目の同窓生もご招待することになりました。今年のメインゲストは、平成18年3月卒(5年目)・平成13年3月卒(10年目)・平成3年3月卒(20年目)・昭和56年3月卒(30年目)及び昭和46年3月以前の全卒業生(40年目以上)の方々です。

もちろん、招待年度の対象ではない同

窓生、ご家族連れ、ゼミなどグループ単位での参加も大歓迎ですので遠慮なくご参加ください。

当日は、特別講演として11時30分より記念講堂において、元全日本女子バレーボール選手でスポーツプロデューサーの三屋裕子氏をお招きして「バレーボールと私〜いつも燃えていたい〜」と題して講演を行います。三屋氏はさわやかな笑顔と高さのあるシャープな攻撃で、1981年東京ワールドカップで人気沸騰、女子バレーボールブームに火をつけました。1984年ロサンゼルス五輪で銅メダルを獲得。現在、バレーボールの普及にとバレーボール教室を主宰、そのほか講演会やテレビ・ラジオでも活躍されています。

また、13時30分からは中央講堂において、本学文学部教授久保田昌希先生による「戦国武将松平家忠と家康・信長・秀吉一本学図書館蔵「家忠日記」の世界」と題した講演を行います。家康の「従兄弟」である家忠が著した日記を通して、「天下人」やさまざまな「歴史的事件」と出会い、戦国社会を眺めていただきたいと思います。久保田先生は、15・6世紀の日本、特に東海・関東地方の戦国大名を中心に今川氏、松平・徳川氏や北条氏、織田・豊臣氏政権の研究がご専門。是非ご期待ください。

この他に坐禅体験、施設見学(禅文化歴史博物館・図書館・総合情報センター・



深沢キャンパス・法科大学院等)、懇親パーティーや豪華景品が当たる抽選会等盛り沢山の企画も用意いたしております。

なお当日は、在校生によるオートムフェスティバル(大学祭)も開催されますので、学生団体の若さあふれる催しで賑わいます。

11月はさわやかな季節、秋の一日を学生時代に戻ってゆっくりと振り返り、恩師や同窓生との再会をし、イベント等で有意義な楽しい一時を過ごしていただければ幸いです。

また、この日にOB会や同窓会を予定しているゼミ・サークル・任意の団体などがあれば、可能な限り本学のホームページのホームカミングデー欄に掲載して参加者を募る連携もしたいと思っておりますので、遠慮なく下記宛にご連絡をお願いいたします。

(実行委員長 秋沢 英策)

駒澤大学ホームカミングデー 実行委員会事務局

<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/hcd/>
TEL 03-3418-9640
E-mail:koho@komazawa-u.ac.jp

オートムフェスティバル 2011

駒澤大学の大学祭である「オートムフェスティバル」

今年は11月5日(土)・6日(日)で行われます。おもな企画を紹介します。

●禅文化歴史博物館横特設ステージ ミス駒澤コンテスト2011

「ミス駒澤」の名をかけて、出場者がパフォーマンスを繰り広げます。当日の投票でミス駒澤が決定します。

●駅伝応援プロジェクト

開催期間中に行われる「全日本大学駅伝」の模様を、ステージ上のスクリーンで放映します。また、1月2日・3日に行われる箱根駅伝の応援メッセージを旗に書いてもらう企画もございます。

●THEパフォーマンス駒沢

学生有志、近隣の皆さまが、ステージ上で力ごもったパフォーマンスを披露します。一部パフォーマンスは体育館で行います。

●記念講演

●お笑いライブ

今、旬のお笑い芸人の漫才を無料で見ることが出来ます。今年は、ペナルティ・キングオブコメディ・チョコレートプラネット・少年少女の4組の芸人さんに出演していただきます。皆さまに笑顔をお届けします。

●音楽ライブ

SHERBETS/OKAMOTO'Sの2組をお呼びして行います。

●体育館

●駒澤フレンドパーク

さまざまな年齢対象のミニゲームを多数用意しています。

●坐禅会

駒澤大学ならではの企画。大学構内にある坐

禅堂で実際に「坐禅」を体験していただきます。

●エコ活動

他大学に先駆け「カーボンオフセット」を実施しています。「カーボンオフセット」とは、模擬店などの売上金の一部を植林活動に使用し、大学祭準備、実施等に排出したCO₂を相殺しようというものです。また、全模擬店で間伐材わりばし利用、「世田谷区みどりのトラスト基金」への寄付活動など、大学祭を通して環境問題を考えていきたいと思っております。

そのほか、マジックショー&マジック教室、スタンプラリーやゼミ・サークル・学生有志による模擬店・ライブ・研究発表なども行います。是非、お越しください。

主催：オートムフェスティバル2011実行委員会

共催：駒澤大学 協賛：駒澤大学教育後援会

タイムテーブル (一部変更の生じる場合があります。)

| | 11月5日(土) | 9:30 | 10:00 | 10:30 | 11:00 | 11:30 | 12:00 | 12:30 | 13:00 | 13:30 | 14:00 | 14:30 | 15:00 | 15:30 | 16:00 | 16:30 | 17:00 | 17:30 | 18:00 | 18:30 | | |
|----------|----------|-------|-------|--------------------------|---------------------|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|--|
| ステージ | 開会式※1 | | | | THEパフォーマンス駒沢 | | | | ミス駒澤コンテスト | | | | THEパフォーマンス駒沢 | | | | | | | | | |
| 記念講堂 | | | | | ホームカミングデー | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 体育館 | | | | | 駒澤フレンドパーク | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学内 | | | | | スタンプラリー | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 駅伝寄せ書き | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 模擬店・教場企画(ライブ・研究発表等) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 坐禅堂 | | | | | | | | | 坐禅会※2 | | | 坐禅会※2 | | | | | | | | | | |
| 11月6日(日) | 9:30 | 10:00 | 10:30 | 11:00 | 11:30 | 12:00 | 12:30 | 13:00 | 13:30 | 14:00 | 14:30 | 15:00 | 15:30 | 16:00 | 16:30 | 17:00 | 17:30 | 18:00 | 18:30 | | | |
| ステージ | | | | 全日本大学駅伝中継 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記念講堂 | | | | | | | | | | | | | BINGO大会 | | | | | | | 開会式※3 | | |
| 体育館 | | | | 駒澤フレンドパーク&THEパフォーマンス駒沢※4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学内 | | | | | マジックショー&マジック教室 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | スタンプラリー | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 駅伝寄せ書き | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 模擬店・教場企画(ライブ・研究発表等) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※1：9時50分から10時00分

※2：12時50分から13時40分と14時00分から14時50分で実施、受付は各10分前

※3：17時00分から17時20分

※4：THEパフォーマンス駒沢は11時00分から12時00分

平成23年度科学研究費助成事業 39件採択

科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を対象とした「競争的研究資金」です。文部科学省または独立行政法人日本学術振興会が審査し、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対し助成が行われています。

本学の平成23年度科学研究費助成事業は、新規・継続あわせて39件が採択されました。

平成23年度 科学研究費助成事業採択者 ※GMS学部＝グローバル・メディア・スタディーズ学部

| 研究種目 | | 所属学部 | 職名 | 氏名 | 研究課題 | |
|-----------------|---------|---------|-----|--------|--|--------------------------------------|
| 基盤研究(B) | 継続 | 文学部 | 教授 | 飯島 武次 | 中国渭河流域における先周および西周文化の総合調査 | |
| | 新規 | 法学部 | 教授 | 北野 かほる | 紛争解決制度化の比較史—前近代における「裁判」と「裁判外」— | |
| | 新規 | GMS学部 | 教授 | 白水 繁彦 | 多文化社会の排除と包摂の論理：ハワイにおける文化創生をめぐる民族間交渉と戦略 | |
| 基盤研究(C) | 継続 | 文学部 | 教授 | 橋詰 直道 | 高齢化時代の別荘型郊外住宅地における居住者特性と居住環境に関する研究 | |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 坪井 健 | アジア学生文化の変容に関する国際比較研究 | |
| | 継続 | 文学部 | 教授 | 山田 信行 | アメリカ合衆国における移民労働者組織化と「社会運動ユニオンズ」に関する調査研究 | |
| | 継続 | 文学部 | 准教授 | 有光 興記 | 自己への思いやりに焦点を当てた認知行動療法プログラムの開発 | |
| | 継続 | 経済学部 | 教授 | 渡邊 恵一 | 戦前期日本の鉄道事業における「公共的性格」の再検討 | |
| | 継続 | 経済学部 | 准教授 | 鈴木 伸枝 | 信頼と多様性：自発的取引社会における規範のゲーム理論分析 | |
| | 継続 | 法学部 | 教授 | 中野 裕二 | フランスにおける市民参加の実態と理論に関する研究：「共和制モデル」変容の視点から | |
| | 継続 | 法学部 | 教授 | 三船 恵美 | 中国の対中東外交と「真珠の数珠」戦略が日米に及ぼす影響 | |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 教授 | 久保 陽一 | ヘーゲル論理学の発展史および分析哲学的研究 | |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 准教授 | 小川 順敬 | 沖縄久米島の家系資料群の研究 | |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 准教授 | 矢野 秀武 | 近現代タイにおける非政教分離的な宗教行政に関する総合的研究 | |
| | 継続 | 総合教育研究部 | 教授 | 鈴木 裕子 | 平安・鎌倉物語文学の享受と展開に関する総合的研究—絵と本文の不連続性について— | |
| | 継続 | 法曹養成研究科 | 教授 | 若林 亜理砂 | フランチャイズにおける不公正な取引方法についての総合的検討 | |
| | 新規 | 文学部 | 教授 | 近衛 典子 | 日本近世期における中国白話受容の研究—『陰陽録』を中心に— | |
| | 新規 | 文学部 | 教授 | 櫻井 陽子 | 覚一本『平家物語』の遡行と伝播・受容についての基礎的研究 | |
| | 新規 | 文学部 | 教授 | 土井 光祐 | データベース構築に基づく明恵関係問書類の記述的研究 | |
| | 新規 | 文学部 | 教授 | 須山 聡 | 「まとまり」と「つながり」の観点からみた島嶼性に関する地理学的研究 | |
| | 新規 | 文学部 | 教授 | 酒井 清治 | 東日本における初期仏教寺院導入期の考古学的研究 | |
| | 新規 | 文学部 | 准教授 | 佐々木 真 | ルイ14世の戦争指導—フランス絶対王政論の再検討 | |
| | 新規 | 文学部 | 准教授 | 李 妍焱 | 中国の市民社会に良き影響を与えるために：仕組み作りと意識変革のための実践的研究 | |
| | 新規 | 法学部 | 准教授 | 内海 麻利 | 都市マネジメント主体の変化と実態：フランスの住民参加手続・公定化手続に着目して | |
| | 新規 | 総合教育研究部 | 准教授 | 小沢 誠 | 結び目の位置と曲面 | |
| | 新規 | 総合教育研究部 | 講師 | 上田 倫史 | L2学習者の語彙理解の深度を測定する包括的な語彙テストと学習支援システムの構築 | |
| | 若手研究(B) | 継続 | 文学部 | 教授 | 唐澤 一友 | 韻文および散文の「メノロギウム」：暦学教育との関連から |
| | | 継続 | 文学部 | 准教授 | 高橋 健太郎 | 中国における回族の宗教的・経済的ネットワークと地域社会の変容に関する研究 |
| | | 継続 | 法学部 | 准教授 | 原田 啓一郎 | 医療事故と社会保障—産科医療補償制度と社会保障法制の交錯に関する法的分析 |
| | | 継続 | 法学部 | 准教授 | 山崎 望 | 「帝国」における民主主義の変容—欧州の思想的配置から |
| 継続 | | 経営学部 | 准教授 | 菅野 佐織 | ブランド・リレーションシップの構築と共創価値の関連 | |
| 新規 | | 文学部 | 准教授 | 田中 靖 | 航空機レーザ計測データを用いたプロセスベース型地形シミュレーションモデルの構築 | |
| 新規 | | 経済学部 | 准教授 | 北口 りえ | 未実現利益への課税がもたらす課税所得概念の変容 | |
| 新規 | | 経済学部 | 准教授 | 松本 典子 | 日本における労働統合型社会的企業モデル構築のための国際比較研究 | |
| 新規 | | 法学部 | 講師 | 奥村 公輔 | 立法手続法の体系化 | |
| 新規 | | 経営学部 | 准教授 | 岸田 隆行 | 予算管理の運用方法とその効果に関する実証研究 | |
| 研究成果公開促進費(学術図書) | 新規 | 文学部 | 教授 | 飯島 武次 | 中国夏王朝考古学研究 | |
| | 新規 | 法学部 | 准教授 | 山崎 望 | 来たるべきデモクラシー | |

科学研究費による考古学海外学術調査

文学部教授 飯島 武次

日本学術振興会より平成18・19・20年度および平成22・23年度と科学研究費補助金・基盤研究(B)(海外学術調査)の交付を受け、中国陝西省の渭河流域に分布する西周時代遺跡に対して考古学的な調査と発掘を継続して行っている。現在の研究課題名は、「中国渭河流域における先周および西周文化の総合調査」である。

研究代表者は飯島武次が務め、研究分担者には酒井清治教授・石井仁准教授・寺前直人講師等に加わっている。中国側の海外共同研究者には、北京大学考古文博学院・徐天進教授、陝西省考古研究院・王占奎副院長等をお願いしている。また研究協力者

として大学院の歴史学専攻考古学コースの学生諸君も研究に参加している。

渭河北岸一帯は、史書に見られる周建国の舞台で、周を建国した古公亶父や文王・武王・周公旦が活躍した地と考えて間違いない。平成18年度から平成23年度まで、1年間の中断はあったが、6年間にわたり、渭河北岸の岐山県で発見された周公廟遺跡を中心に、考古学的な調査と発掘を北京大学・陝西省と共同で、毎年約1ヶ月以上行ってきた。これまでの研究で、西周遺跡群の地理的環境を明らかにし、出土した西周甲骨文を解読し、周公廟遺跡が西周武王の弟である周公旦の采邑(都城)と墓地である可能性が高いと考え

るに至った。

毎年、考古学専攻の3年生のために周公廟遺跡の現場を借りて2週間の発掘実習の授業を行っているほか、この調査で撮影された研究用写真は「外国考古学概説」の授業等で教材としても用いられている。



ボランティア体験記 ～はまらいんや～

私は、千葉県八千代市・船橋市を拠点に地域活性化活動や美化運動を続けている団体で組織された「東洋フレンドシップクラブ」に属しています。4月27日に有志が集まった31人のクラブ員と共に、気仙沼市総合運動体育館でけんちん汁や焼きそばなど3,600食分の炊き出しを行いました。気仙沼市内には99カ所の避難所に1万4,937人（4月27日時点）が避難していましたが、その内6カ所で食事を提供しました。自衛隊の炊き出しの無い所では、温かい物や新鮮なサラダが非常に喜ばれました。



震災直後という事もあり、限られた道しか通る事ができず、多くの復興支援車両が通行していました。また行き交う多くの復興支援車両から復興への道のりの厳しさを感じました。そんな中、避難所の満開の桜の下で、たくさんの「ありがとう」をもらって帰ってくる事ができました。さらに気仙沼市で毎年8月にあった気仙沼みなとまつりが中止となったこともあ

り、7月30日には気仙沼市九条小学校にて追悼、復興の意を込め夏まつりを開催しました。広い校庭に櫓（やぐら）とステージを設営し、小さな子ども達からお年寄りまで楽しめるイベントを催し、屋台などのお店を出店しました。多くの子ども達は、とびっきりの笑顔を見せてくれました。有志により約200着の浴衣を用意し、現地の方々に着てもらい盆踊りに参加して頂きました。現地の方で“みんな一緒に”を意味する、はまらいんや踊りという曲に合わせて櫓を囲み大きな輪を作りました。そして盆踊りの終盤にはキャンドルに明かりを灯しタワーをつくり（右写真）、東日本大震災によって犠牲となった方へ黙祷を捧げました。



会場となった小学校の体育館では、10数人の方が避難生活を余儀なくされていました。被災された方とお話する機会があり、当時の状況を聞くことができました。普段は穏やかな気仙沼の港が地震の直後一変し、炎の津波が大きな漁船や水産加工所を一飲みにしたそうです。しかしながら、現地の方の復興にかける熱いエネルギーも感じることができました。

自分自身の目で被災した直後の街を見たこと、現地の方に直接聞いた貴重なお話は一生忘れる事はできません。戦争を知らない私たち世代にとって、東日本大震災は多くの事を考えさせられました。

（経営学部市場戦略学科4年 廣瀬 公平）

地域との繋がりを大切に ～用賀商店街への関わりから～



私が所属する経済学部松本ゼミナールでは、まちづくりや子育てなどを研究対象に、様々な分野の非営利組織の経営学を研究しています。

2010年度に東京商工会議所が主催したまちづくりプレゼンテーション大会の対象地域は世田谷区で、地域活性化案を発表し優秀賞を受賞しました。一方で私たちは、学生らしい方法で実際のまちづくり活動に携わってきました。

特に力を入れてきたのが、2010年4月から駒澤大学や附属高校に近い用賀商店街において開始した「ようが＊アワーズ」という活動です。毎週金曜日の18時ごろに「ハロー＊ようが」という商店街のコミュニティスペースに集まって、商店街の食材を調達して料理・食事をした後、商店街の方々から仕入れたその週の新鮮な情報を纏めて、インターネット放送で流します。放送はすでに50回を超え、現在は100回を目指して頑張っています。継続的に商店街活性化

のお手伝いをするとともに、商店街が開催するお祭りや物産展などの単発的なイベントにも参加して、地域の人々から様々なことを学んでいます。

2011年6月からはフリーペーパー（地域情報新聞「YOGA-R」）の企画・編集を通じて、郷土史家の飯田恭次さんに取材する機会を持つことができました。また取材を通じて出会った用賀の夏祭り（YSF）の実行委員会に参加させて頂くことで、地元のために頑張る同世代の方々から多くの刺激を受けました。夏祭り当日は、ゼミ生10数人もボランティアとして参加し、用賀地域に住む子どもからお年寄りまで幅広く繋がる事ができました。これらの活動は、まちを元気にすることを目的に始めましたが、逆にいつもまちの方々からパワーをもらっています。今後ゼミでは、地域との繋がりの大切さを伝えるとともに、もっと多くの方が地域と繋がりを持てるような機会の提供に力を入れていきたいと考えています。

（経済学部商学科3年 北條 優紀）



駒澤大学での思い出

留学体験
レポート

2010年9月～2011年8月

プロヴァンス大学（フランス）より本学文学部国文学科へ留学
ジラン・トマ

皆さん、授業に行く途中に上を見上げることがありますか？

多分、日本人の大学生にとっては普通のことだけど、私は駒澤のパオの近くにあるもみの木や、禅研究館の近くにあるイチヨウの木が非常にきれいだと思います。日本にいる間の一年間、その木が好きになって、なぜか愛着がありました。



大きくて、形が素敵で、季節の移り変わりとともに、私はその木の変化を見て楽しんでいました。私は昨年の9月に来日しました。駒澤の木が日が経つにつれて紅葉したのを見て感動

しました。冬の間見られない木の葉が、春が来るとまた見られるのは、毎日私に元気をくれました。試験の時には木の日陰で、たらこスパゲッティを食べながら色々復習をしました！私はこの木と共に時を刻んできたのだ、とあらためて実感します。木が表情を変える様子は、私に時の流れを感じさせてくれました。そしてその時々木の様子を思い出せば、その頃の自分がよく覚えてきます。

1年間の留学を終えて日本を去る事を考えると、やっぱりその木が懐かしくなります。だから私はいつも授業へ行く時に、駒澤の素敵な木を自然と見上げていました。駒澤大学での思い出の中で、人々との思い出がたくさんあるのはもちろんですが、場所と自然の思い出も沢山あり、特別なものでした。



華東師範大学 夏季語学セミナー

体験記

文学部国文学科2年
西口正太郎

今年の1月に旅行で初めて中国を訪れた際、他人にどう見られているかなんて気にしない中国人の精神的な強さと、ただただ広がる大地を見て日本にはないものを感じた私は、「今年もう1度中国に来るんだ」と決意しました。1ヵ月ものあいだ食文化も全く異なる中国で食べていけるのかという懸念よりも、これで中国に行けるという嬉しさだけに支配された応募でした。



渡航直後は困難ばかりでした。まず授業中の先生の中国語が聞き取れない。この生活を1ヵ月続けることに絶望感さえ感じたほどです。それなのに町に出れば道を尋

ねられる、店に入れば商品を売りつけられる。自分がアジア人であることに苦笑いする毎日でした。

そんなある日、大学の図書館で本を閲覧しようとした際、図書館の決まりを詳しく知らなかった私は、職員にこっぴどく叱責されました。どうも私が館外に本を持ち出そうとしていると思われるのですが、「借りるつもりはない」という中国語が思い浮かばない。職員は「インサイドオッカー、アウトサイドノー」を繰り返すばかり。やっと苦し紛れの中国語が通じて本の閲覧を許されたとき、私はこれが本当の「中国語が上手になりたい」という欲望なのだと感じました。

時が進むにつれて少しずつではあるものの、中国語での会話に慣れていく自分を感じるのには、実に不思議な気分でした。相変わらず分からない単語はあるものの、何となくこういうことを言っているのだろうという推測は、ゆっくり納得へと変わっていきました。店で値切って買った商品には、値段以上の価値がありました。突然一緒に写真を撮ろうと言われ、やや困惑している中国人たちと写真に収まるのは快感でした。依然として道案内はできずじまいでしたが。

このセミナーを通じて、私はいろんな意味での強さを中国からもらったと感じています。中国は発展途上なので、どんどん景色が変わっています。今のあなたしか見られない中国を、是非感じて欲しいと思っています。

国際センターよりお知らせ

◎春季短期語学セミナー参加者募集中

- クィーンズランド大学英語セミナー（オーストラリア）
平成24年2月18日（土）～3月24日（土）36日間
募集人数 32人
- プロヴァンス大学仏語セミナー（フランス）
平成24年3月3日（土）～3月28日（水）26日間
募集人数 15人

＜申込・受付＞

期間：10月21日（金）まで
場所：深沢校舎2階国際センター
※卒業年次生は応募できません。

◎クィーンズランド大学・来日プログラム

- ボランティア学生募集中
留学生の学習・生活を支援し、交流をします。
英語力は特に必要ありません。
期間：11月24日（木）～12月18日（日）25日間
- ホストファミリー募集中
留学生のホームステイ家庭を募集します。
通学に便利な近距離の家庭を希望します。
期間：11月26日（土）～12月10日（土）15日間
※詳細については、国際センターにお問い合わせください。

答えにくい学際領域の「研究テーマ」

グローバル・メディア・スタディーズ学部講師 南 政樹



仕事柄なのか、学外で人と会うと必ず「研究テーマ」を問われる。「仕事は何か？」に類するものだと思うが、いささか答えに窮してしまう。

相手は、大学の学部／学科名などに近い「工学」のような答えを想定しているようだ。だから「グローバルメディアスタディーズです」と胸を張って答えていた。そうすると、学部の趣旨や進路など、私の研究とは全然関係ないところに話が逸れてしまう。それでは申し訳ないので、「インターネット」と答えている。しかし、先の想定とは異なるので、「ボカーン」とした表情に出会うことが多い。

私が取り組むのはインターネットにまつわること全般である。出身学部や研究室がいわゆる「学際領域」だったため、先進技術への挑戦や効率の向上など、いわゆる工学的研究から、実社会での応用事例(ビジネス)の創出、そして、社会に展開する方法(政策)、そのためのルール(法律)に至るまで、インターネットに関連する分野で研究をしてきた。したがって、この「研究テーマは何ですか?」という質問に対して、最も単純で正確な答えは「インターネット」になると考え、そのように答えている。

夏休み中に参加したボランティア活動で、GMS学部の学生と一緒にになった。その時も「先生はどんなことを研究しているのですか?」と問われた。「インターネット」と答えると、「技術的なことですか? それとももっと違うことですか?」と、初めてすんなり次の段階の会話を成立させられた。同じ穴の何と何かも知れないが、「インターネット」と言い続けていいと確信した瞬間だった。

アメリカ便の搭乗手続きは面倒ですか

法科大学院教授 日笠 完治



在外研究に派遣されたカリフォルニア州は、2010年9月23日にA.シュワルツェネッガー知事のもと、1月30日を「フレッド・コレマツの日」とした。

コレマツ事件は、有名なアメリカ憲法判例のひとつである。第二次世界大戦中、F.D.ルーズベルトの出した大統領令9066号により、12万人に及ぶ日系アメリカ人が財産を没収され11の強制収容所へと移住させられた。人種に基づくプロファイリングである。しかし、コレマツはこれらの法に従わず有罪とされた。自由と平等の国アメリカは、その後これを反省し無罪判決を下し、クリントン大統領は1998年大統領自由勲章を彼に授与した。

一方、オバマ大統領は2011年5月2日に、9.11アメリカ同時多発テロ事件の犯人として、オサマビン・ラディンを射殺したと宣言した。その上で、アラブ系イスラム教徒に対する人種差別に警告を発した。だが、キューバにある悪評高きグアンタナモ刑務所は未だ閉鎖されていない。人種プロファイリングではなく、テロに対して空の安全や国の平穏は如何にして守られるべきか。

第二次世界大戦中に強制収容所に送られた経験をもち、最初の日系人閣僚となったノーマン・ミネタ運輸長官は、憲法の保障する自由と平等を確保し、あらゆる人の尊厳を重んじ敬意を表する道を選んだ。それが、空の安全を確保するための運輸保安局(TSA)設置である。確かに、細々とした所持品や履物チェックなど、一律で厳格な搭乗検査に不便を訴えることは簡単だが、それによって人種差別を否定し、空の安全が確保できるなら、必要かつ合理的な負担といえよう。

世界の文化を探る — ブータンの自然と生活 —

1985年に生態系の調査グループの気候担当として、ブータンを初めて訪れました。ブータンはヒマラヤの南面に位置し、標高や地形の違いによって、気候も大きく異なります。アッサムに面する南麓では、年降水量が5000mm近くになりますが、首都のティンブーなどの位置する中流域の谷底では500-600mmの年降水量しかなく、乾燥した谷が出現します。また、尾根筋では雨が多く湿っているのに、谷底に向かうにつれ、雨も少なく急激に乾燥します。モンスーン地域にあるので6-9月が雨期ですが、雨期でも谷底に位置する地域では、午前中は晴れていることが多く、午後遅くから夜にかけて雨が降ります。このような気候の地域差が、植生などの生態系の地域差を生み出し、原生に近い多様性に富んだ貴重な自然が形成されています。これまでの調査では長くても2ヶ月の滞在だったので、在外研究で1年間滞在できたことは、季節の移り変わりを知る上で貴重な体験でした。

1985年からブータンをみてきて、人々の生活は、ここ10年で大きく変わりました。首都ティンブーの一般家庭にはテレビ、洗濯機などの電化製品が普及し、自動車を持つ家も増え、携帯電話は必需品です。このように生活は大きく変化してきましたが、国教である仏教の教えが生活の隅々まで行きわたっているように感じます。調査に出かけても、ブータン人の朝は、お経を唱えることか

ら始まります。寺院での法要に出かけるだけでなく、家庭でも節目ごとに僧侶を招いての法要が営まれます。世界的に有名になったGNH (Gross National Happiness: 国民総幸福度)も、このような仏教の教えがベースにあると感じます。最後に、ブータンには10のカレッジを統合したブータン王立大学があり、現在交流を模索しています。ブータンの大学との交流に興味のある先生方はご連絡を頂ければ幸いです。

(文学部教授 江口 卓)



ティンブーツェチュ (チベット仏教の聖人パドマサンバヴァのお祭り)

漫画 倶楽部



えーと、漫画描いてます
以外に言うことあ、たがな
……。特にな、いような……。
困、たなも……。うーん。



年2回(夏・冬)のミックスマーケット
会誌を配布しています。(XINの
活動)

気にな、たら一度、ぜひ
あとびにきてみて下、さい!
大学会館4階403号室で
活動しています!

あとは毎日てきてーに
集、らなくがきしたり
好きに書、けり自由な感じ、です。



好きなテ、ーを決め、て
有志、の絵、を描、き用、いた
する『テ、ー、杯』とい、う
企画、も年、5回、くら、い
も、て、い、ます。(2、ニ、ア、ウ)



山崎ゼミは、2年生の基礎演習と3、4年生の演習Ⅰ・Ⅱの3科目で構成されているゼミです。日々、刻々と状況が変化している現代社会を多角的に分析しています。私達が当たり前のように暮らしているこの社会を分析していくと、様々な問題や考えるべきポイントを見つけ出すことができます。国際化と国民国家、経済格差や度重なる金融危機、ジェンダー、テロリズムなどといった問題です。しかし普段の生活では、多くの問題を意識せずに通り過ぎてしまいがちです。山崎ゼミではこうした「あたりまえ」や「他人事」を改めて問い直す作業を大切にしています。

普段のゼミは、その日の議論にあたって設定される文献を熟読して作成するレジュメと、私見・各種資料を用いて進められます。人数が多いため全体を3班に分割して議論が行われますが、このことが多様な視点・論点に接する非常に良い機会になります。このほか不定期でディベートや班ごとの研究発表を行うこともあります。

様々な活動をするうちにメンバーたちは打ち解けあい、いつでも率直な議論ができる関係に

なります。山崎先生のご指導の下、人間関係が希薄になりがちな大学生活において、ゼミがメンバーにとっての日々の居場所の1つともなり、成長するためのエネルギー源としても機能しています。加えて、山崎望研究室公式サイトにはゼミ生向けのコンテンツがあり、世界中どこにいてもオンラインでゼミの活動を確認することができます。日々議論や情報交換に活用されています。議論の活発さと温かさは他のどのゼミにも負けません！



オーストラリア大会出場レポート International Cup 2011 オーストラリアンフットボール部 “マグパイズ”

みなさん、オーストラリアンフットボールというスポーツをご存知ですか？まだ日本ではあまり知られてはいませんが、海外では結構知られていて、特にアメリカ、ヨーロッパではいくつかのチームがあり、とても人気のあるスポーツです。名前の通りオーストラリアが発祥で、国技とされています。その魅力はプレーのダイナミックさ、スピード、上がったボールを奪う空中戦、攻守の切り替えの早さです。必要とされる運動能力は高く、世界最強のスポーツとも言われています。その人気度は、誰もが知っている誰もがやったことがあるくらいで、週末になると10万人を収容するスタジアムに、家族、友達、恋人同士で駆けつけます。中には1人で来る人もいます。私はそんな素晴らしいスポーツに1年生の春、サークルフェスティバルで出会いました。



今年は、8月10日から20日間にわたり、オーストラリアのシドニーとメルボルンで行われた世界大会 (International Cup) に参加しました。我が駒澤マグパイズからも多くの選手が日本代表に選出され、サムライズ (日本代表の愛称) の中心選手として世界の国々を相手に戦いました。1年生の春から年間を通して行われる国内のトップリーグと別に、この大会に向けても練習をしていたのでとても強い思い入れがありました。海外の



チームの体格、身体能力を生かしたプレーに苦戦しましたが、日本チームもそれに勝る部分もありました。結果は18チーム中12位で満足は出来ませんでした。結果とは別にマグパイズのメンバー1人ひとりが、大きなものを手に入れたような気がします。今回、私は学生代表のキャプテンとしても大会に参加させていただきました。様々な体験をさせてもらい、人生で最も濃い20日間になりました。個人的には大会の最後に発表される世界選抜に選ばれました。発表された瞬間、今までの努力が報われた感じがしてとても嬉しかったです。最後に、応援してくださった方々、本当にありがとうございました。3年後にはさらなる活躍が出来るように頑張っていきます。

オーストラリアンフットボールに関するルールや動画などは、<http://www.jafl.org/>もしくは「JAFL」と検索していただければご覧になることができます。ぜひ見てみてください！！

(主将 文学部英米文学科3年 佐藤 健)



第26回ユニバーシアード競技大会(中国・深圳)に日本代表として攪上宏光選手(経済3)、油布郁人選手(経営2)が出場。ハーフマラソン団体では日本チームが優勝、攪上選手は金メダル獲得に貢献した。

ユニバーシアードを終えて

経済学部経済学科 3年 攪上 宏光

第26回夏季ユニバーシアード・中国深圳大会に、陸上競技の日本代表選手として参加しました。私はハーフマラソンに出場し、日本人1位と個人総合3位以内を目標に掲げてレースに臨みましたが、日本人2位の個人総合4位。3位の早川君(東海大学3年生)とは13秒差。目の前で私の目標とする順位でゴールされ、悔しさや勝負に対する自分自身の甘さがこのような結果になってしまったのだと痛感しています。

私にとって今まで夢でしかなかった世界大会が、今大会に参加できたことにより、もっとレベルの高い世界大会に出場したいという目標が変わっていく気持ちを実感しています。そして、レースに参加できた事を光栄に感じ、今後の競技に活かしていきたいと思えます。

また、今の私を支えてくださる方々に感謝しています。



ユニバーシアードに参加して

経営学部経営学科 2年 油布 郁人

今回私は、陸上競技5000mの日本代表として、中国深圳で行われたユニバーシアード大会に参加しました。結果は、予選は通過したものの決勝では14位と、納得のいかないものとなりました。このような大きな舞台で自分の力を発揮するのは簡単ではないと改めて実感しました。食生活や環境も変わる海外の試合で、いかに自分のコンディショニングをしっかりと行い、調子のピークを試合に合わせるかが大切な事と知りながら、今大会ではそれがしっかりできなかった事に悔しさが残ります。

今大会の結果を受け止め、経験を次に活かし、精進していきたいと思えます。



サークルの活動予定

声援歓迎 みなさんの応援をお願いします

体育会(9団体)

●陸上競技部

- 第43回全日本大学駅伝対校選手権大会 / 11月6日(日) / 名古屋→伊勢
- 第88回東京箱根間往復大学駅伝競走 / 平成24年1月2日(月)・3日(火) / 東京箱根間

●弓道部

- リーグ戦(東京都学生弓道連盟主催) / 9月18日(日)~10月30日(日) / 加盟大学道場

●ボウリング部

- 第50回関東学生秋季レギュラーリーグ戦 / 11月6日(日)・13日(日) / 北千住マルアイボウル・曳舟東武ボウル
- 第50回関東学生秋季個人リーグ戦 / 11月12日(土) / 北千住マルアイボウル
- 新人リーグ戦 / 10月16日(日)・30日(日) / 曳舟東武ボウル・北千住マルアイボウル
- 関東学生新人選手権 / 11月19日(土)・20日(日) / 高尾ボウル

●アイススケート部

- 平成23年度関東大学アイスホッケーリーグ戦 / 9月~11月(予定) / 東伏見ダイドードリンコアイスアリーナ

●軟式庭球部

- 秋季リーグ戦 / 10月22日(土)・23日(日) / 千葉県白子

●アメリカンフットボール部

- 秋季リーグ戦 VS 青山学院大学 / 10月16日(日) / 川崎球場
- 秋季リーグ戦 VS 武蔵大学 / 10月30日(日) / 駒澤大学玉川キャンパス
- 秋季リーグ戦 VS 一橋大学 / 11月13日(日) / アミノバイタルフィールド
- 秋季リーグ戦 VS 横浜国立大学 / 11月26日(土) / 川崎球場

●ゴルフ部

- 第55回信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦 / 10月25日(火)・26日(水) / 千葉CC・梅郷コース
- 第12回信夫杯争奪日本女子大学ゴルフ対抗戦 / 10月25日(火)・26日(水) / 千葉CC・梅郷コース
- 第58回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権 / 10月26日(水)~28日(金) / 千葉CC・梅郷コース
- 第14回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権 / 10月26日(水)~28日(金) / 千葉CC・梅郷コース

●空手道部

- 第54回関東学生空手道選手権大会(団体戦) /

10月30日(日) / 日本武道館

- 第55回全日本大学空手道選手権大会(団体戦) / 11月20日(日)(予定) / 日本武道館
- オーストラリアンフットボール“マグバイズ”
- JAFLトップリングレギュラーシーズン最終節 VS 大阪ディンゴーズ / 10月31日(月) / 大阪(未定)

文化部(3団体)

●吹奏楽部

- 第48回定期演奏会 / 12月18日(日) / 渋谷C・Cレモンホール

●電気美術研究部

- オータムフェスティバル / 11月5日(土)・6日(日) / 駒澤大学

●美術部

- オータムフェスティバル / 11月5日(土)・6日(日) / 駒澤大学

任意団体(2団体)

●管弦楽団

- 第34回定期演奏会 / 11月19日(土) / 昭和女子大学人見記念講堂

●応援指導部ブルーベガサス

- 第7回天馬祭 / 12月3日(土) / 駒澤大学記念講堂

| 平成23年度(平成24年1月)定期試験日程 | | |
|-----------------------|---|------------|
| 1月19日 | 木 | 専門集中試験 1日目 |
| 20日 | 金 | 専門集中試験 2日目 |
| 21日 | 土 | |
| 22日 | 日 | |
| 23日 | 月 | 専門集中試験 3日目 |
| 24日 | 火 | 火曜日開講科目 |
| 25日 | 水 | 水曜日開講科目 |
| 26日 | 木 | 木曜日開講科目 |
| 27日 | 金 | 金曜日開講科目 |
| 28日 | 土 | 土曜日開講科目 |
| 29日 | 日 | |
| 30日 | 月 | 月曜日開講科目 |

| 定期・追試験実施時間 | | |
|------------|-------------|-------------|
| 時 限 | 試験時間(筆記) | 試験時間(レポート) |
| 1時限 | 9:30~10:30 | 9:30~10:00 |
| 2時限 | 11:00~12:00 | 11:00~11:30 |
| 3時限 | 13:00~14:00 | 13:00~13:30 |
| 4時限 | 14:40~15:40 | 14:40~15:10 |
| 5時限 | 16:20~17:20 | 16:20~16:50 |
| 6時限 | 18:10~19:10 | 18:10~18:40 |
| 7時限 | 19:40~20:40 | 19:40~20:10 |

注1)1月21日(土)・22日(日)の両日は、大学入試センター再試験日(予定)のため、定期試験は行われません。
 注2)1月19日(木)・20日(金)・23日(月)実施の専門集中試験は、専門教育科目のうち、履修者数の非常に多い科目を対象として、授業の開講曜日・時限と異なる時間帯で実施します。
 注3)筆記試験において、途中退席はできません。

◎「追試験受験願」の提出締切：2月1日(水)18時まで。教務部⑧番窓口。
 ※追試験の受験を希望する場合は、欠試を証明する文書を添付した後に、受験許可を得てください。証明書等が添付されない場合は、申請できません。
 ※詳細は、『履修要項(学習ガイドブック)』を参照してください。
 ◎追試験日程：2月9日(木)・10日(金)、13日(月)～15日(水)、*16日(木) ※土曜日振替試験日
 ◎成績発表：2月14日(火)にKONECOで発表します。 <追試験分は2月21日(火)>
 ◎『成績調査願』申請受付：2月14日(火)～18日(土)、20日(月)～22日(水)
 追試験分は2月21日(火)・22日(水)

不正受験行為を行った場合は、「不正受験行為者処分規程」に基づき
・ 譴責処分 **・ 停学処分** **・ 退学処分**
 となります。

※詳細は教務部掲示板、大学HP、KONECOで確認してください。
 また、KONECOでの確認は、携帯電話よりもPCの方をお勧めします。

大学からのお知らせは、駒澤大学ケータイサイトへ



答案作成 ワンポイントアドバイス

誰もが読み、書き、話し、聞く。書き言葉・話し言葉とは、わたしたち自身を現わす(かたちにする)ものであり、そのことによって相手と関係するもの。言語表現とは、自己表現であるとともに、他者とのコミュニケーションなのであって、communicateとは、「分かち合う、共にする」ということだ。

試験も同じで、答案は解答者の言語表現なのである。「分かち合う」のだから、読みやすいよう分かりやすいように書く

のは当然のこと。とうてい読めないような乱雑な字、主語/述語などの文のねじれ、常体(だ・である)と敬体(です・ます)の混用、何を答えようとするか曖昧な内容——それでは高い評価は得られない。

- ①丁寧な字で、きちんとした文章を書く
- ②何が問われているかを考えて、ポイントをおさえる
- ③分かりやすく具体的に、整理して説明する

——そのような配慮が必要である。

答案作成も表現行為の一つだから、ふだんの振る舞いが投影される。

- ①相手が誰かを考えず、
- ②何が求められているかを確かめず、
- ③ただ勝手なことを喋ってはいないだろうか。

自身を現わす(かたちにする)こと、相手と関係する(分かち合う)ことに自覚的であって欲しい。

(文学部教授 勝原 晴希)

久保田利伸先輩(経済学部卒)のコンサート&Newシングル情報

25th Anniversary TOSHINOBU KUBOTA CONCERT TOUR “Gold Skool”は、10月7日(金)の埼玉・三郷市文化会館を皮切りに、全国30か所で開催中。首都圏で開催される公演は既にSOLD OUT。

そして2012年Live開催が決定。

「“Gold Skool” TOURの最後を飾るParty Liveをアリーナ会場で行います！タイトルは“Party ain't A Party!”(これ以上のパーティはない！！)アリーナならではの楽しさと感動をご用意してお待ちしております！」

(久保田利伸所属事務所：Funky Jam)

1月21日(土)・22日(日) 国立代々木競技場第一体育館

一般発売 12月4日(日)10:00

※チケット等問合せ先 ディスクガレージ 03-5436-9600

※詳細は、Funky Jamホームページ <http://www.funkyjam.com/>



デビュー25周年の今年、アルバムに続きシングル曲を発表。10月から来年1月にかけて、コンサートツアーも続きます。

8月3日(水)にリリースされたNew Album『Gold Skool』

そして9月28日(水)には、New Single『声にできない』も発売されました。この『声にできない』は、映画「夜明けの街で」(原作：東野圭吾170万部突破のベストセラー、角川映画)のエンディングテーマ。切ないメロディと表現豊かな歌詞、歌声が心に響く作品です。

▶インタビュー記事は次ページ(P.16)へ掲載

『世界が広がった学生時代』 ミュージシャン 久保田 利伸さん



1962年静岡県生まれ。1981年駒澤大学経済学部経済学科入学。軽音楽部ロック研究会に所属。1986年、レコード会社争奪戦を経てメジャーデビュー。以後、「Japanese R&B」のパイオニアとして国内外で活躍。作曲家としても幅広く楽曲を提供。2011年にデビュー25周年を迎え、10月からアニバーサリー・コンサートツアーを開催。

デビュー25周年を迎えた今年、節目となるアルバム制作の直前に起きた東日本大震災を受けて、久保田さんは一度立ち止まったそうです。人の痛みを自分の痛み近づけ、励ましてではなく、寄り添える歌を。そんな言葉のあたたかみを意識して作ったというアルバム「Gold Skool」の発売日に行われたインタビューでは、学生時代の思い出がたくさん飛び出しました。

----駒澤大学時代、久保田さんはどんな学生だったのですか？

授業はまじめに受けていましたね。大学受験の時に、集中して勉強するクセがついていたので、1、2年のうちに結構単位をとりました。そのおかげで、その後はプロになるためのオーディション活動などに集中することができたんです。授業の後は大学から3駅の渋谷を隅々までよく歩きました。

----思い出に残る授業はありますか？

今もおつきあいがある古沢先生(※1)の「アフリカ研究会」というゼミですね。経済学部の先生なのに、なぜかアフリカ三昧で。僕の好きな音楽のルーツがアフリカだったので、それはもう楽

しかったです。卒論も「アフリカの音楽」をテーマにしたおかげで、今もその分野の話になると詳しく話せます。希望する学生は先生とタンザニアへ行けるんです。僕は行けませんでした。卒業後に4回くらいアフリカに行っているのは、先生の影響もありますね。アフリカにルーツのある音楽で僕がデビューした時は、とても喜んでくれました。

----サークルは軽音楽部ロック研究会に所属されていたそうですね。

はい。当時からR&Bが好きだったので、ロックはちょっと違うかなと最初はジャズ研究会やラテンコンボ研究会など、R&Bに少しでも近そうなところを回ったのですが、ジャズ研では「ボーカルはいらない」と(笑)。ラテンコンボも、パークッションくらいしかなくて、すぐにロック研究会に行きました。その中で、僕は滋賀県出身のファンク好きとバンドを組み(※2)、当時、玉川キャンパスにあったプレハブの練習室で、週4回くらい練習していました。

ロック研究会が年に一度だけ注目を浴びる学園祭が思い出深いですね。ジャズ研とロック研に演奏が任されるダンスパーティーで、通常なら1年生がステージに立つことはありえないのですが、先輩から「おもしろいから今年はお前が歌え」と。



----プロを目指したのはいつ頃ですか？

子どもの時から、スポーツ選手とならんで歌手になるのが夢でした。楽器を始めたのは中学時代で、仲間とギターやキーボードをいじっていました。ステージで演奏できるほどではありませんが、この時の楽器の経験が今も曲作りに活かされています。ただ、高校は野球の伝統校に進学したので、甲子園を目指して1年半、音楽から完全に離

れていましたね。その後、「野球ではプロになれない」と見切りをつけ、音楽でプロを目指すために、東京に出ようと思いました。

----大学生活が今の音楽活動に影響している面はありますか？

芸能界って、ちょっとうまくいかないとダメになっていく人が少なくありませんが、僕は学生時代にいろいろ経験できたおかげで強くなれたと思います。中でも様々な価値観をもった人々との出会いが、今も大きく影響しています。もし、田舎から出ていきなりプロになれていたら、その価値観がわからなかったでしょうね。自分の好きな音楽なんて100ある音楽の1つでしかない。好きな音楽は決してぶれないけれど、幅広い層に聴いてもらえる曲作りには、学生時代の様々な価値観との出会いが影響しています。

----最後に現役の学生たちにメッセージをお願いします。

コンピューター中心の時代なので、ネットの中での充実感もあるとは思いますが、もっと外に出ましょう。日本は小さな国だけど、それでも違う環境で生きてきた人たちとの出会いが、自分の世界を広げてくれます。今の学生たちは、二十歳そこそこで就活などで将来を決めることに奮闘しなきゃいけない。そこで自分なりに判断し、頑張るのは大切なことだし、頑張らないと後悔するだろうけれど、残りの人生の方がもっと長い。それが人生のすべてとは思わずに、一つのことにと没頭したり、多くの仲間と触れ合って学生生活を価値あるものにし、ドスンと構えていくことが、必ずその後の人生の支えになっていくと思います。



※1 平成22年3月に退職された古沢敏造名誉教授。「貿易論」「アフリカから考える」をテーマにゼミを展開。
 ※2 現在、作曲家として活躍する羽田一郎さんと組んだファンク・バンド「ホットtent」